

紫東武部記傍註

凡

月購種	種別	番號	號
日入		月	H

9153
416
Vol 1

壺井義知大人著

紫式部日記傍註

書肆

青山寺藏



之之稱才。志不為。不為。而。

漢。曹大。家。陸。淳。于。東。上。記。

博。學。才。古。今。傳。焉。

本。邦。之。不。之。貫。人。而。紫。式。部。

名。一所。著。日。記。一。生。文。綴。詞。

達。亦可見矣。一班士人。并有之。

烏。年。搜。索。得。善。本。雜。讀。考。

博。字。雜。解。者。極。注。考。校。

上。使人。易。曉。乞。余。一。悟。曰。化。

某。月。以。還。之。云。

享。保。己。酉。之。年。某。只。藤。魚。降。英。亨。

某。貢。

母。父。合。家。之。遺。物。



良。印。

靜。林。堂。文。書。室。

陳。基。

關。國。武。子。公。私。藏。等。

榮。文。書。

紫女々譜

紫女々譜傳家系譜

閑院左大臣冬嗣公篤之子

内舍人正六位
贈太政大臣正三位

良門

從三位號堤中納言

利基

從四位上右中將

兼輔

從三位號堤中納言
歌人

雅正

從五位下刑部少輔

爲頼

從四位下奮天左馬亮
母有大臣定方安

伊祐

從四位下讚岐守

歌人

賴成

從四位下因幡守
實具平親王男

今按此日記云中勢のまつりは事とゆふよのれく
されどひよせあら人とおりしもかくすりせひよ
とハ此由緒成一

爲時

正四位下越後守或作越前守
儒者 歌人

惟規

從五位下式部丞
母常陸介爲信安

此日記云このうこ式部丞との人のりとこそ史記とひよ文

後拾遺集云父のりとふ越後守はアリケルよ

後拾遺集云父のりとふ越後守はアリケルよ

惟通 從五位下 安藝守

定遷

阿闍梨

女子

紫式部

母同惟規

嫁左衛門權佐宣琴

河海抄云應司殿從五位倫子官女也相繼而陪仕上東門院
又云源氏一部の中に紫の上乃奉ととられて侍ひる在り
又式部の名とくらべて紫式部と号せられきり。

今按此日記云左侍つ替公任ありて此よりにあ紫や
あづぬとうづひねよ云是式部と指く若紫と稱せらう

き 今抑宣孝卒の後上東門院より仕むる

父宣孝 嫁太宰大貳高階成章因號大貳三位
女子 賢子 後一條院御乳母

采花物語殿上花刃卷云内のはめのと太貳三位云

父同上

女子 兵局 後冷泉院御乳母

采花物語楚王の妻卷云万葉ニ年八月三日後冷泉院誕生
ひりては乳母といふ所ニ云大まの御方の紫式部ももすめ入
越後舟。なほつ替のひ子うこするうつゝまづけう云
兼隆卿

紫式部日記傍註

四

御門殿在土御門南烏丸西
文子舟風
父祖
詠
計十初月晦日
今安此
あや
今休
中宮御前

紫式部日記傍註上

秋の景^景東^東のまことに。土沖^土の夏^夏は有^有いとん
う^うの形^形くら^る。池^池乃^乃引^引り代^代本^本をもとよ。水^水乃
かづりの茅^茅村^村。よの^{よの}あくみけをわうづく。おほき代
えをえんぢたててよそへ^{自恣}。がんのひこ^{不^不時^時讀}。經^経
れよくのそれまづりけり。やうくすすと風^風乃
きすむゆと。まいのまくまん水^水のよしひ。夜^夜もすく
まくまくはう。ほま^例。トもらううりうぬん。まく
めうわううすく伏^伏す。うつ。がやまく
だくまくとくめうとくめうとくめうとくめうとくめうとく

五壇御修法者
不動降三世軍
荼利大威德金剛夜叉等法也

轟
清住寺は在主。ひまへのふと。廻んぢ一は信都ハ
姫文殿のふと。うちつまうもやうえすこまそゆつ
ト。きがく。ひきうつ。木はまくわすて
うりゆ。やもじふ凡や。あらへてわれ
り。さいさわうりも大井とくとくよひく。びと
うめうり。くまうつまへ来もあま。よこゑ
戸くらのつむにみうせ。やのうち、うづか
れぬもまくわらぬ。ありうる野草で。こといしん
りて原う水くらの野草。うろみかこりう
きふか。下法い。うゆうゆうゆ。一枚りう野
女郎花 美 馬場 殿 遍昭寺
清禪イ 向閑梨 咸德 暈
屈 道長公 橋 桑 腹身

おくる丁度のやう勢強て。ほうの
最 いとうをすらふ。我わまほのこひもよきへ。あれ
遲 とくしてはよろんとのほもよひあとつきくす
れりとふづれ

身か一ゆうはあがむにあがけぬとぞ

わふとくとみてすりめり

温

二人

あらやひうた事小。宰相の志とあつてわざてやる
殿 内 にえくう。三位の先すそれのつまりやすくぬ
絆。さうのやとくは。いとれとれくくふくさ
意 ふ きゆうて。へねうろととくかたものあられき。

世のわううきくとて。おもするまといおれど。
人のわふにうすゆうじそめ。されど。もつげみ

忍。うちひきぬ極ゆく。もくろの一小くうらぎにて、

うちひき。そはうそ。あるううにほめうるてとれ
あらうゆう。かくうれよのうちわりひゆう

きわわう。うのおりはる。さあとのすくねき。ハ

きすくも有ひいわう。うらゆのうとごのしけつ

ける日。わくえぬよゆうてほよそ。ごどんのうゆでく

えぬ。へうがけくびとゆくとくして。ともとゆ

のゆくとく水ゆうにまさつ

まくがのたらせはまよひあつとひるまされ

古今和歌集秋
哥小野良材不
知題外良花未注
トアサヒタマリ
セカシヤヒル

わすきのれしとどものころハ人をもす。八月廿日
わまれば宿りがんじらか廻工へよ。まみハシカ
宿直
寝
このぬくらゆて。ぐのうへいのとせ、こ下くふ。まね
うて承としゆくまかうわきひらうと。あとやえ
れまよとしは。たとくしにじりくらゆ。まゆそひ
今様 哥
酒
いもやううめり。下つきてはりうりけり。宮大史
齊信卿
酒經注生
實成卿
ありの。た宰相中將種房。き清骨。みのり少将すりよ
かくしてひきよ。もくわうひもひ。ゆめひ
夏むねをやう。努力せよ。まくはす
わくろへ。けあつまえと思ひおうつ。まく
騒
集

種房公卿補仕
作經房下皆効

うらわりと詠歌うかと。あるふかうううとゆ。

わきびりきり。九日まくはりと。濡れありの
菊綿菊綿^帽りあみて。されどうへはさうわきと。老い

のひすて。絞殿^上のせつものい

剣のあやうりに袖られてをのうしに代へてん

そそう身身をもんとするやふ。あきにうてゆきす

おひねとわは。もうあきにうめり。まわる

ひまへりうづられ。月おほくさかとけよ

まことれあくまうるものすくとゆこひいつ。かとく。

こかねのあた納まのあたとまくひほ。ひひとくよ

薰物

萬

帽

御産氣御産氣

封

立

端

綻

火取

座

きとひのあたの。どうして。あくろこあがほ。ゆすの
ゆうあぬれ。うき。ほどのあがくと。とく。
からく。まえさする。といもとひよ。ま
す。うこ。ふり。まもと。ひうち。ゆり。う
かり。ちどり。まくら。うり。ゆり。う
にかうて。あそと。あひ。と。ゆり。まくら。ま
す。うり。うそ。まくら。うり。う
ゆのくとすに。用あらわる。ゆたか帳よつ
さす。反ようそ先まうて。さんたら。ゆ位み位と
うち。ゆいと。うそ。日もひひとろりと。ももと

おもかげへうとう身行ひ。心よりけどりうつひ。

かううかくさりたのへしる。月よみをうきうすひ。

つるみ。うちのううとひうはいもいもとじくさく

と尋う。まんざとひううのううがくまう。とひ。

三世の佛もつまうまうまんとあひやうめんやう。

とて。せようまうまうううう。やまとうけの寺。

耳振立

まくまそねへわ。とくとくまく。こどもやうの

はひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ

御廉

白木ノ

御物怪_ト或御
産時或御重病
時寄物怪問之
義也立物若女
毫号物付是也

起

紫式部用語傍註

四

五

駆移

御廉

白木ノ

ノのもうあう。まことにハ原んと見る。但正僧都

罵

尊

屏

御誦經

雙

御

者

書

怪生

局

風

驗

者

紫式部記傳註上

とくかうひてらりとまと。僧心もあうて。もうけ
やうじきうけかとまうひてかねよしめん。げん源もうけ
まうじせがくは教書よ。かくもやくもかさくく
て。まうあきつをす。よの葉のりくよるたうく。だの
りけをうとかうりうたむ。まううらそく佛神
しらこゑをせやまのあのりく。まうもみがひ
あく。いきくわくさう。へあくとえり
わく。せくくうかうやくのくにゆひすくえ。え
せきりくうくく人まお骨くこうて。いとくほくうち
くうきうおりくまとらんとて。ふまこおありてゆく
くう勢持て。まうきくれり。の二ませりとくにハラフ
消音
うちに行和寺のきうげの本。三井寺代内くのあも
りれど。ものまうけのくちく勢持ゆくよ。まうも
すれてとくせぬやうすり。いアーミリカドム。
大納言のあこ少将の本。あれかく。キの内侍。サ勢の
本。たよの金ぬ。大式部の本。友のせん。よしむ
へりんのかうりぬく。ぐとぬとりくうきく。だ
と。まくひかくいとくとくひひくいよねや。まくあ
ううの、まくとくとくさらうのとふ。内侍のうこの
サ勢のめのと。非君のサ勢をうりと。とひめのこあま
内侍のまく尚侍
まくは一官の長
官也。入内侍乃
多けハ典侍也
直乃次官也

内侍のまく尚侍
まくは一官の長
官也。入内侍乃
多けハ典侍也
直乃次官也

除

さひよ。みー人のいわうをのうからむかへう。

かんかくう。

賢

罵

神

心

譽

時平公曾孫

まかんよわう。

法

住

寺

律

師

右近くう人よ。やうらう

外

阿闍梨

都

此間假字ア芳僧

つわよ。らううのううとあうもれは。づのうけよ

物

怪

ひくうびうして。やうく

物

怪

ゆうとくうくう

物

怪

ゆうとくうくう

物

怪

のうすくうりうじ。

物

怪

きう。寧相の志。

置

強

のうすくうりうじ。

物

怪

ひくうとくうくう

物

怪

藏人ハ津集
律師見名一本二弁衛の
律師見名

詰もせ。うらうは西山後代。うらをと。かのてまうけ
をせねー。人のつやのよは肩さやひのゆくろ。

つみとも。りてらひいふるあめいの色もきじすひ。

螺 鈿

唐 衣

繡

裳

引

結

集

らでんぬいわ。ぐるぐるねまをしてひき。うそ
りそらぬかふとひうづ。まらうへはあふ。

例

懷平卿

きのよし風もうなやき。づまのまよきの大丈

度のえ勢おで。ひもうづれつ風う氷づらりせ

れひくとせき。たゞまはゆされりせのりひ

れりとくとくも。たゞまはゆされりせのりひ

れりとくとくも。たゞまはゆされりせのりひ

れりとくとくも。たゞまはゆされりせのりひ

埋

齊信卿

笑

矜

中

と。ぐりゆうううれし。あつてゆる

葉隆卿

源俊賢卿

鉢直織物代表

せゆとくわゆ。お寧お中ねハ行中御まとなま

對

箕子

頼定

御帶

佩

使

て。あとのものこにわ経ア。門もく

賴定

御帶

佩

使

ねくほくねくねく。よくい勢のこてくにひく

奏

禄

御帶

使

やとのわくよくよく。あらうそ。だりくふおり

奏

禄

御帶

使

まとほりうき。うせき。ほくやくよくひひ。

注上

乳付

腰緒

腰緒

乳付

腰緒

三位のふ子。ゆめのとりく。うき。うちつけハ橋の

宗時

腰緒

腰緒

腰緒

腰緒

腰緒

くよいとて。おとふりおとくつうゆつ。ほけ。お
じ。とくみ朝見れひすめ。くのくのせりめのとくゆ
みのへやうのとくゆ。火をてあのもと部。とく

西

緑

のまゐりうつて。あらそたうづくして。おゆます。

さのむけをもとるたいふと。まかきだあわひす。

藤辺

光

おりれどもちうら。あれよひのれいふあせ

播磨

清

子

源仲

信

子

長

覆

子

木

二

右馬

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

源

信

子

蓋人每日ちかく。からりんのかくからして。史記の
一もりんとし。づうちサ人。お位十人。六位十人。

鳴弦子

欄

かうみよ。からりんのかくからして。史記の
かうみよ。からりんのかくからして。史記の

テぬくりあらうてます。うれむか。ほくこひ
博士

ちゆゆくりやうりきん。信機代としゆくとんの
古文孝經天子章

くせとく。きの孝經がく。えうちらは史記
中原致時

文帝のまたとそもしもへ。今日のやくう。

大江舉周

中原致時

くま内のみくすりわく。ものこおまへ。

掲

焉

くまとぞくすふ。よなすゑよ。がくとくは。おが

たるやうに。やくわくとくあくとくやくとく

きくらすれとび。おきくゆいて。のくやうみよ。

泰

登

しん。一志あいのつり。まうのゆく。人。お

れとく。づちゆく。すれすれ。がくよのく。あ。お

御

聰

うらとく。おれ。けくら。りくとく。ふくとく。

うれぬく。すく。わく。かひ。うれ。ハカ。くとく

表

著

うらとく。うれ。おれ。もんのくとく。くとく。

うらとく。がく。すく。ハカ。くとく。うれ。三。あ。ゆ

ゆく。あ。とく。くとく。か。すく。とく。

かく。あ。とく。くとく。か。すく。とく。

かく。あ。とく。くとく。か。すく。とく。

かく。あ。とく。くとく。か。すく。とく。

見うり。うり人のれどおがくもものへふりと
ゆのふるくらむ。もうまゐのねいのとハ。うる
とにて神くらよ。とくらよ。とめぬひめ

裳

をぬよれよ。せて。くみをうみ。もくは
かきうてめやのりんすえ。りくまととのうあかくは。

農

すちかくさゆ代。月のむには足まつて。うち
うつ。うつくとそことくと足まつて。うち

うつ。うつやうなり。三日におひめ。うつ
うつ。うつとくとくと足まつて。うち

玲瓏

瓏

うつ。うつやうなり。三日におひめ。うつ
うつ。うつとくとくと足まつて。うち

御衣舊塗銀泥
其上付銀汎濱
同鶴龜小松折
立用龜甲白織
物下机花足面
押龜甲織物以
小鳥鑿足案二
銀泥塗之付貝
脚同以銀泥塗
乏皆有百銅金
物四角付白組
總同面敷白木
文薄物有下繪
等管一合納織
物御衣一襲重
合納綾襪祫
不合綾襪祫
二帖平絹御襪
一帖各二幅
長五尺
惟入合色目

同前已上各墨

紫玉音言假言上

十三

白織物裹有秋
案一腳置二合
各有輕薄物單
三幅長一丈三
尺以白紙繡小
鳥折枝等帶一
筋長一丈靠近
習受領各人
令調進花飴之
美教非俗眼所
及之記定例也

御座部類

小
鳥折枝等帶一
筋長一丈靠近
習受領各人
令調進花飴之
美教非俗眼所
及之記定例也

ちう。か煙火と本の並にそりつ。ども
さともしてヨリ。おやこよりのとだめへつ
わくくきにとまて。お姉ようちゆけり。
さのりううちゆけり。まひも。とこううれい。ひる
のやうすに。ううこれくとれ本のりくまと
立ちしれてす。上連アリす。まんかくやうのよ
うちしれてす。自恣隨身
ともう。まうあかくらよつてめうと。うろせゆれ
老のいてあつゝする事ば。まよいつと
あひり。まひやうこそうらようちあ
あらうけり。まひて夏のうちれん。まふひう
のうをあらわす。め位ともせよ。まことと
す。まことと

あくよもうちうめを。めちうひのそりけり
うゆて。まむよわいにけり。まのまよと
女房八人ひと月あにううきて。がこのすをちき
りもしひとて。まちきほんりてつたまゆす
のゆき。あひ。まの内は。まよひ
やうたのみがくゆひとへじ。うみのううひ。づ
もうをあらまゆ。まくゆて。めうきにとづき
ううめで。とくまうにゆり。うが。うみわけ
う女房。

様式部かのく
様式部京ゆうじゆ 小衣門とうひちうのく
大浦伊勢のく 小衣門とうひちうのく
大浦さくらう姫 大じぬおほのぬ 小じぬおほのぬ
大浦さくらう姫 小じぬおほのぬ 道のう姫

にうひめもひとく。こくわけまよひり。じんりの
女宮。ふとももちうぬかり。みくもつまかくやうる
よりやのうん。むねをふせうとすらすう。
寝 楚 替
つやくわんべ。らほやまくくまくゆて
殿 公 家
あんてんのきんう。は廊。まことよ。戸くちよて
れす。もとくよ。シトマ。かくれへ。ひとえくゆ
かくく。おのまゆうして。女房。えどりくよつて
わづか。わくよ。くくく。くじて。まづす中にも。おや
大影 許 小塙 大
あまは。おりくわ。黨。うきわ。とねる
式部 御許 陸奥
とねり。うなぬ。うか。おはきよ。えもぐく
きのめ。とくせん。よだの。令ぬ。う。う。う。

てとくわどりふきらよのひして、ひとりもふ。
 やはうとたもうとるーと。あらえんかうりの
 やもれ。并の内侍のをふきらのを、ぬきと
 そもとまきめつゝー。ぬいもむねのうひと
 ゆそもがつ。ふとーかとくー。がねのじくも。
 おれまへがくをうのもくせびとく
 ほきあう。がねれおりよ。あみのくすりう
 ぐりうと。うぬきんすう。うの東の山のゆう
 えのゆくよ。あめうきうれへよ。のもう
 まくぬひやうぬと。ゆりて、あせよ。う
 のもとと。まく見ゆ。とつひゆ。と

妹

殿

信

濃

夜居

ゆくこと。本さんとはとくとくて、ゆくす
 てそもとくひゆ。ううちあ座くうちて、はく
 のうよまう。殿ともゆめよりて、揃セミ
 紙のうよまう。秋ともう。女房う
 つきとわく。いきのうとく。うちく思ひ
 うわく。

ゆくひ。ときう月がりう。うき代もくみ
 け条太納中年公仕卿云にゆうのさんや。うて代はうわふく
 こひづひうひのう。ひとと。あめだわく。おと
 小とおとて。夜のうけぬき。うわく。うわく
 もうて。うて。うく。うく。うく。うく。うく。うく。

源禮委記自元永
 二年五月廿日三
 夜立切燈室
 於座上置菅田座
 一枚大進清隆
 置筒簾於印座
 上次殿上侍臣
 兩三人參進置
 紙置之自下脚上達
 部同置之次有擲攤之興事六
 月二日五夜亦同

延年月のひよりわひてうやう。ごくまちむすりきやう
すらかのぢんよくうぬのまことうとよばうへとよ
あううちが二位ともあめにては近余ぬ。若かね余ぬ。
しのの余ぬた近余ぬ。疏おの余ぬ。近いの余ぬ。と
せうしゆ。くぐりくらわんへくあれ。ひう
ももゆうん。もののかくもまといへり。度い
てわれてやれどもあくまくは。すこひてとや
なれども。どうわともあくまくは。七年秋ハ
おややけのひよふ脚あひ意人。が。道雅。とほほうひ
まともうまくうむうか。まぶいもとれ。うく
うくうくうくうくうくうくうくうくうくうく

海部

海

蓬

來

列

部

どとくぬとよいまめ。白いの衣とこうのぬ
とうちひて。ほうら、なときのとれといぬめ

うあまふおうもく。うもくらへまのい

つまつこにわのうそもく。こもひかきて

くらう木形。本丁。きいのうぬまとく。ハ。

濃

媚

のとくよすう。めつゝくふゆく。がまめにて

う。うれちう。あもしに。ばやく。せりう

てうえう。まもんのすくもやう。と見え

ふうれう。まどおきくよしの。もちみは。一

恥

かり。十月十日までも。四丁生三を宿とみ一

きもあれ。おまみよす。むらう。ぬ。ゆの

夜中あをりう。こにむまのうせつ。ばめのとれと

引

搜

うとあ。うそう。うそう。うちとけく。がう。うそを

う。あふくすくね。うね。れとあくもとく。ふ。

くも。うとあく。うとく。うとく。うとく。うとく。

うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。

うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。

うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。

うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。

うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。

うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。

うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。

培

培

具平觀王

具平觀王

具平觀王

力うこととあらう。れ幸ちくさりのとて。との。

造 篷

うちといふくつづくこゝ勢は。世にわたりあき

菊の詠とすのり。かうてアリ。いろくうろひ

うし。うけうが見としろめもさぬくようとそ

なを。わきうはあえぬる見よてておはきよ

退

れいも志不きねてきうもすり。がやぎて

すりよの。すうともあめり身かききうは。

すりよの。すうともあめり身かききうは。

すりよの。すうともあめり身かききうは。

すりよの。すうともあめり身かききうは。

すりよの。すうともあめり身かききうは。

書

文

まうれうつむく。いとアハが成わらすれ

罪

あん身ひいもか。ほもをぬうりか。おもそ

書

文

うちかうめて。あもとめりよ。あけよらひ

強

ウタ代みよ

書

文

霞

濃

染

紙

れうせう。ととくに。内ぬのうとかまくせ。づ

書

文

霞

濃

染

うちういたうかすめうにきんじ

かきうさんとおれむれ

おもひをひくひうえもなまくふあくまくせん
うの日かくづくはくわくす。おとよめりやせう
てゆ徳を。まうなげうのいきくうち。ゆへや。ま
くわさやううううう。行幸ハ内のことをさき
あつまうぐくとくとくとくとくとくとくとく
い店ハ。サ一のまいかれは。あくはきのやうにま
うものひ。内侍のうんのやうのれに中くへれ
きうきくさとむらじうじうじうじうじうじ
曉ゆサ將の志アツリ候て。おとよめにからきう
う

龍 鷦 首

鰐 雞 體

假 船

尚侍

急

駕輿

急

鼓

樂

船

卧

俯

坐

倚子

はまふとすばうけをとす。女房のわづる。ものうちら
りとす。すれどもアリカタす。かくあとちへよ
その日ひみわげうり。ちあとのきのいへり。もと
くまうやうから。ちあとのきのいへり。もと
のじよんのうゑ。すれどもひきくんすい。
海線綾 未濃
表著菊 帶圭
海せんきうと。ごとくとんよそめう。うくまくはうの
みへい初くはくしゆ。すくとつりてう。いま
くつきとあくかくくくめ。くみやすく。うとけり。并
の口ぬはるくのひも。絆よえひき代りりの
うらう。もかくあはきのまゆ。ととくやふ
おきかく人のほも。けふすアリ。つまうも。
扇 領巾 襟
表著 青
ゆくとくとくをひきくわらばん。ゆめれやうにす
よとめこのすくも。かくやあくとまとめておや。を東
アキ。いとつまくとくとくとくとて。ひうれあとも
かく。やとく。アリ。な中ねじもく。ひとうて
門侍はげよ。こすの中、伏見をそ。もやうれよ
人くい。きいのあがひ。あういののかく。あよ地も
の意。うらきい。アリ。とて。もくう代わう。あ
むうのゆねそ。えひもめどもて。ゆ。うらりのも。ハ
濃 古馬 薄 紅葉
うたうとんりみらとらむ。まゆう。やうよ。す。中なか

領巾延喜縫殿
寮式中宮春李
篇云領巾四條
料糸三尺六寸
綾小判北山抄云
禮服其裙帶
紫綠半合加帳
紀兩端繡形不
用簪用綦是位
也

えふるもきいのくらうれあひうすと志とんり。

うわは、菊と。うへにへすくふこす。わやゆ

うれはまのたまくへと、ハレのあはきり。

ハスくうかとみがへきて。うそひとも、ハシムアヤマ。

大海
農
襲

お月うめすりもの。水のあそぶやうにあらへ

菊
腰紐
固文
詠

うれ三へみへゆくわうわはま。よしに人ハ菊のあへ

のうく衣とらにあす。うへ白く。お代さうう

とひ。すく。一へはあくまむけ。うへすまう。りき

くあきすひう。片に白きまおへす。すてあくは

たうこのそかとくへみお。ひひうそめう

愧

真恵達

數

おうふ。まじめあくぬうちもうらぎうかみてえられ

まき。くせほくしてつらひまき。一へ

劣

きくそたる。女心のたまこよひもうめで。やの

やみれとくびとくらめ。みのとうへかと

うへうきへ。まくはうりへこちたまう。ワ

くうりえうこう。そへあくこすりかみのちい

てこそ。わやく人のうだとあくくくもくづ

てもととあることうめりんめう。がおけよすれす

みすうとからうなまくめ。うへうの女房。

まうけてううね。がくまくうひくまうね。

揭

目

伯

似

盛

事

痛生七葉裏

韻

額

あり二人食ぬたり。むきうひのくひより。れりの

まつとくせん方東の木とのかみあげて。内は

のりてりすもれらうめりり。こきハトモアミ
角 髮

天女す。左東ハあとひるよ。やあ、このひのくひ衣。

ちくせんハ菊れめへのくひ衣。言ハきのすりまから。

けまうひ。梅三位。あはひちづく、三ね。ぱくわや乃

三ねう菊のうちづく。うなぎなんめ。一りとああす。

もくらうくしてゆがみもみしも。おきうまつたす。

おあ。れまつてまとまつた。うなぎなんめ。一りとああす。

やまと。うなぎうなぎ。年、宰相代焉。

ひまうくとまつた。りのけどよりみに

このうちむかうくにそりまかはつてまをゆ。

上外
うなぎのまをせひてそ。宰おのあひまくにうきて。

最頭證
うなぎそまにそくたまくらばつとまふありく

うちあるみて。おなぎうなぎのまくおげり。衣

のまくおぐき。小。そもや。一。おと。くまくま。

かくともとおり。一。上連アおまくようひ

う。方きいらく。太平樂_{賀殿}うてん。ひとひよみひとらう

すい。と。あそて事ぞう。わざひて。山のまたのうちと

まよ。よそくりうゆまくに。かのあらびくみみ乃

よそくね風も。あくべく吹あく勢くと。おり。お

よそくねれづれづれ。ゆり水の。あらゆまくす。年久

そ。池の水をとてうちまうた。そのもとに、うの山
ある。あやからむ。うらうらすみすみ。人へおひ
きしきめく。よしもと。うりと。うそと。まき。
てヨリぬ。ちくせんの令ぬは。古院のわくと。
ある。あらわの行幸ハ。やどきひく。あく。とけり。其あり
みゆきひと。ゆひゆきゆ。きみを育ね
つけれど。ヨリうつと。あくふあく。あく。ル丁
原をもあく。ゆき。ゆき。すり。すり。あく。あく。
く。あく。あく。ゆは。あく。に。あく。あく。あく。あく。
あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。
あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。
あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。
圓融院

顯光公

きこゆうとり。てもすや。ことえゆ。だ。清つのう。と
五。さ。の。か。す。秋。や。と。も。す。と。も。す。と。あ。わ。と
誦
公仕
御
大正道長公
ゆ。月。い。夜。あ。と。き。と。と。の。行。幸。と。が。と。と。め。り。う。と
月。首。絶。き。し。く。り。け。り。と。も。ゆ。り。き。ち。わ。と。と。ひ。き。り
絶。う。か。り。と。か。れ。と。か。れ。と。か。れ。と。か。れ。と。か。れ。
う。と。か。れ。た。れ。夜。へ。わ。あ。と。に。ゆ。と。あ。め。ほ。よ。う。と。か。れ。
絶。う。と。か。れ。た。れ。夜。へ。わ。あ。と。に。ゆ。と。あ。め。ほ。よ。う。と。か。れ。
絶。う。と。か。れ。た。れ。夜。へ。わ。あ。と。に。ゆ。と。あ。め。ほ。よ。う。と。か。れ。
西
立
通方
り。あ。え。い。き。と。夏。の。家。可。り。う。と。き。か。う。と。加。階。と。
ひ。井。一。て。わ。よ。い。と。奏。勞。る。せ。ひ。り。あ。つ。う。と。一。れ
ま。う。ひ。く。友。東。あ。く。か。と。足。り。ア。フ。ハ。列。ゆ。と。ま。う。

経ハテリタリシム別あすにナリテ右湯替大ま
モ大丈よ。おけとけ。一の。は後寧おつまくの

皇天吉言公義御 宇多源經頼 加階

人衆端をされひよりもあひて。往もきたり。也

ツテありぬ。ほりよんとのちれとつあを覺。

又のあへて。力の出づひあきさうとそれぬ。よ

ソノうちやすとすくしてみどりありとき。よ

そりめてそひをも勞能。やくらに行幸されたとて

又の日。また宿可別高村と人り。職事ニモリ

きりみてとまきあ祕。ミトロヒテ。まろひて

室禮
きのらのきなじひやつもとく。体。あくまで。ま

ひ前代あり。あゆひといふ。まくともあくとめ

見す。まくまく清きとせ。うちあひて。おけと。殿。う

しまく。まつて。すて。川。開。明。闇。傳。

かまとすり。それで月。と。あり。うふ。おけ。おけ。女房

にありて。さう。見た。すと。ひ。も。げ。い。せ。う。め。ん。と。よ。

あ。ん。つまとの。き。う。と。ひ。ゆ。と。す。と。ひ。小。黒。の

よ。も。さ。ま。う。れ。は。ま。の。き。と。と。ひ。い。れ。つ。ま。す。

ま。の。ふ。い。の。つ。わ。よ。そ。ち。う。と。て。ま。ま。よ。と。わ。が。り

お。寧。ね。ハ。中。れ。う。と。う。て。ま。ま。う。め。か。う。の。か。こ

よ。わ。ま。で。お。そ。や。や。と。わ。れ。と。そ。て。ね。よ。大。ま。の。も。

よ。や。と。の。筋。よ。え。ま。ま。と。と。ん。も。あ。と。く。し。と。や。

され。し。け。ゆ。く。り。へ。す。ひ。い。と。ま。と。あ。け。す。

経房卿

隔子

催馬樂呂歌
安名尊

あふよとぎ
のふとよ
ぎもん

目別 淡注

りで御まつり。我はひつひき。大丈とふと
よらうのよらうめ。いたうとわくものとわくめぬ。きよ
のたうととおととおとととととととととと
月とあつ。かうーのととととととととと
かうーのととととととととととととととと
あうととととととととととととととと
ひとととととととととととととととと
あうとととととととととととととととと
かうーのととととととととととととととと
あうととととととととととととととと
あうととととととととととととととと

九日

十日

十一日

十二日

十三日

十四日

十五日

十六日

十七日

十八日

十九日

二十日

二十一日

ゆかへまよ。御ル
のうへまよ。とれのことう。あう
にれまのわハアツマトヘアリヒトロメア
れり。とひのうんのわ。さあみくれのたひりきん。
そあこのとくみど。はまうあひ。寧相のあ。あう
女房もさいへり。ひひへり。わく。わく。あく。あく
大細てのあ。あんく。にとうてまつまく。らへた
あひのくとも。あひのくとも。あひのくとも。あひのく
え。すく。あまで。井の門はけつまの令ぬ。小中将
のをや。そく。まく。そく。まく。まく。まく。まく。まく

皇太后室 東三院院

御膳 沈 賄

弁子

具

茶 濁 濁

くうくうへ凡ゆくは。かくひか浦のとよゆうす。
 あくし。さりぬうらーたら。おつむをあひうほ丁は
 うらぬく。のうへづてをうへきりおでぬ。うり
 うそき勢はく。やまむれひくは。まつひくふめてく。
 あつちのかれはそ。ちすははる。うりくうを
 うるも。うけがくひめんはも。たまはえい
 そのめへりは。すうのほこうちとあれく。殿りうる
 うけがく。うらめれだ。せひれひれそくの
 わざでり。つみとおはなはうづくぬ。ア
 くのうへくは。とまとあひみれてのうりは。
折 檀 菊物
 うひつわこのわとあれはうり。あうちゑうり

右大臣顯光内大臣公季

蒲 菊
餅

うつきてまのわ。かうらんよつきてまく
 た。だらあへれ光のひりとふきれは。位サ將
 介とくよひと勞てあをくき當て人へみ。うち
 のきいとん下よりとまのうてくよ。あすよりハ山わ
 あ丈啓
御簾
 とすつね。まくらうつとあへとくらうつ
 まくとまくまく。けりぐのうまく
 までわせり。女房ぬごとくわゆりとれり。
 まくとまく。太幼云れも家相乃君。こがねの君。

まは内はとねびて。右のれよりて。ほ木丁のは
えちひをきたらみれ。あきとさうたりすれよ。

あうもーすれ。あきとさうたりすれよ。

アシモーイ。大丈うしきとくあそぶたりとく

實資卿
蓑山僕馬樂

齊信卿

著
キス
悔
計無
体

アシモーイ。大丈うしきとくあそぶたりとく

さへうしげきひ。かううちらまうのううちにわくれり
とくもくもくのあはてかくすくまくじくすもせぬり。

取居

ワラひとりつほくもんき。まくはせうさんと乃はくえ。
和歌

やどひらくわそゆき。きれはまこと

鉢和本あさかくや。こむらとせめまくひすれもみよ。

詠

あま行くもつねるもとニ。ひづりすめうをな。

やどまのねくわく

あ。あらのよひ。あれ。あくよむもの。すもをすとん

醉

まくらかひたはにこむらもむり。けりもみをな。れ

ふ。とあもしもとづり。けりふくりともや。ミニエ

飾

ねよそ。やうけのううりもはく。おほよめし。み代もり

まくら。はせくすみ。さ。あくねくらに。ふ。たりいつを

ら。さの。おまくまく。めく。ばく。まく。れと。我やや

な。あ。まれ。ひ。父。こ。と。ア。は。ま。う。く。い。は。あ。も。す。め。ま。

え。ヨ。く。れ。い。ま。く。い。こ。も。ま。く。い。も。ひ。う。と。思

て。り。く。あ。ね。め。り。よ。れ。と。の。り。く。う。と。お。ひ。ん

を。う。と。こ。れ。こ。と。お。よ。よ。れ。こ。ひ。ら。い。の。は。れ。

ひ。う。と。こ。も。よ。う。と。も。お。け。き。か。く。ハ。う。こ。も。ら。い。と。ま。

め。そ。て。そ。の。ま。ま。か。う。ま。お。ほ。この。く。う。く。め。く。ー。と。れ。や。を

あ。や。こ。う。く。努。め。く。う。れ。れ。と。そ。う。き。く。と。く。

も。く。う。く。こ。お。り。ん。わ。そ。そ。と。い。そ。れ。あ。ゆ。丁。の。う。ら。が。こ

く。う。努。活。あ。か。を。そ。と。わ。が。ま。く。ん。お。や。の。あ。れ。へ。こ。そ

無禮

すもかここれとうらほやとぼよとぐくひひ
 うらうきつんのとくがくぬよだまくはひう
造 管
 はくういとがま勢活とあ。あげそそハモリ。じひま
紙 横 調
 らひて、まくれこみえうううううううううう
 まもそほ。まくらくはぬもたくもうつハモリ
 うつめうつしとやくみてわくくくく。ふりま
役 寒
 うをうつせうたようれきはやま勢活とまく
 まくわく。うれうとまくみてすまかとりとまく
 まくつまくとまくあうはせきはうせきへと
賦
 かくうまくとまくひで。かく
限
 かくうまくとまくひで。かく

うらうきつんのとくがくぬよだまくはひう
草 紙
 はくういとがま勢活とあ。あげそそハモリ。じひま
紙 横 調
 らひて、まくれこみえうううううううううう
 まもそほ。まくらくはぬもたくもうつハモリ
 うつめうつしとやくみてわくくくく。ふりま
役 寒
 うをうつせうたようれきはやま勢活とまく
 まくわく。うれうとまくみてすまかとりとまく
 まくつまくとまくあうはせきはうせきへと
賦
 かくうまくとまくひで。かく

紫玉韻譜

一
四

ううとれおうちとまゆを。わひのううかひを
きく。やうこむにあめあくべつ。
花もみるねども。春秋はよすをき。三月の
新宿もとみく。その内えふうりとくうり思ひよそつ。
いふやうすとソノ、ゆくす湯のふはそらへやうかくさ
わう。もうあきわうてうかくつきて。うちかうぬく。
不動のすりハあそれようさ。かくす。まくす
たううとくはくの宿てもひひもと。だくこれとあく
まくへくらひ。そくほふとふはきくとくもくとく
せりあくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

おのこせりとれく。たりひづら死だまふらま
わうす代うてみきとも。うやうにもかくは、あ
まくらをかうへんのかうひづらうも我
とふるをねく。かあたものとひにとまらんと
きうもほう。うしろいともうへてえどもま
やくへあくへんとゆうへんハ。が、そくまハ文や
らくまんと。うきうりつめいへ。じうあくハ我の代
うちあくえぬともぬううとまくんと。まとりうふ
てふとあいふれも。中もとあひきと。まつまわ
まうむへあむもすとまくはなりにすともう
やうつ。まかひく人も。がまうかうづ。すてまう

かくひ。とうもあきらめとひよ。こまやまわといひ
うよ。うりてあつしむひてぬぐり。すう
ち。うきよそのもとみや大納戸の毛。うく
ほまくいとらうすうひ。わうううけすま
の毛。うりてうふくいのる。う
うきよ一水のうのうがくがれくわうぞうの
や

うきよぬもむうれむにひそむにひそ
かきぬかとくとたううせ。まくとだすくと

あうお成はらん。あだういぬそうち成らん。
うきよくあくま勢はとくとくもへぬ。このう
のうせうそこハモロウキ。あひあしも。や
うひまくそくまうてこくまうんとあう。と
そくとわて種うかめうとの種をれと。あ
ゆくも。さゆくも勢はる。あとあれも。うけ
うくてうづぬ。う勢はハ十七日から。いのこさ
かとまつまと。やう。おまえみかう。りきつね
ま。人サよ。おやうに。も見てうじりやのひん
かりてひのむう。うらめが房も十よ人みか
のむうのむうと。うらめが房も十よ人みか

やんの。いとけのひ車よ。このう。少浦のえのや
 りうあいとれもりあゆのう。大納言。宰相のえうよ
 ほくに。そのくわよ。こがね。まれわは。つまむじ
 つまむとのう。うとくらきと。うとくらうと
 うとくらうと。あああとくと。いとくらうと
 うとくらうと。あああとくと。いとくらうと
 うれりひゆう。あめりうれりほほの。おの。口は。
 次よおもつのふり。このやん。あまよとせそは。
 あまよとせそは。つまくはきのくまそのうきう月の
 くぬあまふいも。せりとやとおひつ。おとそ
 す。じよめ中ねのふとをよとたれとゆくよ
 あく。とくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ありくも思ひあうれ。ほそらの、三のくらよ入
 ゆられ。こやねのあもれ。あ。す、ばくとれあうる
 クラ。う。原 肥 告者
 あ。身もきるよきるもの。も。たまくはよ。はほ
 の。宰行成卿ねちの宰源經房卿ね。うんの。おせね。公 信
 よりきつ。う。ぬもととせくり。あくへあきの
 とおりそれそ。やさかくと。せり。せんへとく
 つるなり。い。い。朝 強 直
 う。せもとくみて。やかくあとくつひつ。あう
 れじんの。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

あらばうれりと人そよと思ふとくもう。うら身
うせて、ゆきもたりこのせりあへぬ。うちのあれ
やとてにがしけとて、うだうとらうとてわ
はうとたゆうなり。うそよそあくとくうきうく。
人のやくうはきものあよねくとくをほてりん
のうじよのひとくわけさそくゆうよひらん
もくほくのこえうものぐともひほくと見な
らんともぢ。てきこひともひ。うめくとみは
あらとまく。えくうすゆうくうしやもし古今後
撰集。拾遺抄そのぬともみみてうはくうつ。あう
のち。外云こ延轉とあるくううひとくよ。まくらんと

吉成入舟草紙

行者

ゆてつうゆ経て。あうへ經。ひもゆか
くも。あこれうよれう。あくよばうの。りともうナ
やうの。いめへよれう。もとれいふくの集うき
う。あんとちうすみの。おとがきうはうの。そ
れべて。あくうりて。けしをほくみーらぬを
のとむにちうせんうすまかうううとひとぢり

延轉俗姓是陽
成源氏大納言
清蔭卿孫而号
上総公僧也

書

羅

紙

能

宣

元

輔

僧延
轉上清原近澄

番

後附

寛弘五年

左大臣藤道一

右大臣藤顯光

內大臣藤公季

左大將

大納言藤道綱

准

權大納言藤實資

右大將 按察

大納言藤懷忠

民部卿

權中納言藤齊信

中宮大夫別當右衛門督
十月十六日正二位

中納言藤公任

皇太后官大夫 左衛門督

權中納言藤隆家

權中納言源俊賢

治部卿中官權大夫
十月從三位

權中納言藤時光

賛正尹

權中納言藤忠輔

兵部卿

參議藤有國

解由長官
橘守

同

藤行成

左大辨侍從
皇太后官權大夫

同 藤懷平

春官大夫左兵衛督
伊藤權寺

同

菅轉正

式部大輔
八十五

同 藤兼隆

右近中將如元

同

藤正光

大藏卿

同 源經房

左近將右近權寺
左大臣高明公四男

同

藤實成

右近中將侍從

前帥藤伊周

准大臣給封戶千戶

正三位藤賴通

右兵衛督

從三位藤兼定

右兵衛督

藏人頭左中辨藤通方

左近中將源賴定

藤賴親

安將 源重尹

藤兼綱

源忠經

同 新通方

藤賴憲

同 藤原賴通

源公信

同 藤原源濟政

源雅通

同 藤原源道唯

藤道唯

